

2022年度第2回 外洋常任委員会 議事録

開催日；2022年9月2日（金）18:00～19:20

会議の場所及び方法：スポーツマンクラブとWEB会議（Zoom）の併用開催

出席者：（理事）

馬場益弘 会長、中澤信夫 副会長、大村雅一 常務理事、望月宣武 常務理事、
中村和哉 理事、安田大助 理事、岩瀬善貞 理事、萩原ゆき 理事、鈴木祥子 理事、
石川彰 理事、井上貴支 理事、沼田浩行 理事、船澤泰隆 理事、

（委員会関係）

川合紀行 外洋計測委員長、平出篤志 外洋安全委員長、坂口城治 通信委員長

日下部大蔵 ルール委員会外洋規則小委員会委員長

中山遼平 キールボート強化委員会委員長（代理）

船澤泰隆 国際委員会外洋小委員長（理事兼）、

坂谷定生 参与、

（事務局）

鈴木保夫 外洋事務局長、

小山悟 外洋艇登録事務局長

（敬称略）

記録者 鈴木保夫

大村常務理事の進行で18:00より中澤副会長の開催の挨拶で開始した。

中澤副会長：本日は馬場会長が会場で出席しています。

今年の夏は各地でレースが開催されるようになりました。

本日の会議を宜しく願います。

議事

（1） 外洋団体長会議について

大村常務より10月1日開催の団体長会議について以下の内容が説明された。

- ・外洋東海の尽力で、会場とWEBとの併用で、愛知県岡崎市で開催する。
- ・会議後に岡崎駅近くで懇親会を開催する。
- ・宿泊は各自で手配すること。
- ・現在検討されている「加盟団体規定」についての議論を予定している。
- ・久しぶりの会場での会議ですので多くの皆さんの参加をお願いします。

（2）

① サバイバルトレーニングの状況

大村常務より以下が説明された。

今年度2回目のサバイバルトレーニングが11月に予定されている。

詳細については今後周知していく。

小笠原レースに合わせて来年の2月から3月頃にも開催を計画している。

メディカルトレーニングのみの参加も可能となっている。

②小笠原レースについて

大村常務より「小笠原レースの実施（案）」について説明がなされた。

コースは従来とは逆とし、三崎スタート小笠原フィニッシュのコースと沖縄から小笠原までの2つのコースとし、沖縄スタートのコースはカタマランの参加を想定している。

沖縄スタートのコースはニーズと安全面を調査してから決定する。

シングルハンドとダブルハンドのショートハンドクラスと3人以上のクラスを設ける。

八丈島を過ぎると避難する島が無いので、安全基準はカテゴリー2を採用する。

よって乗員の30%以上がサバイバルトレーニングを受けている必要がある。

ショートハンドクラスは全員が受けていなければならない。

今後関係団体と委員会とで協議して公示を作成していく。

以上の説明に対して以下の質疑がなされた。

坂谷：運営規則上は、JSAFは共同主催者となっているが、主催団体はどこになるのか？

大村：まだ決定していないが運営規則を調べて調整する。

船澤：参加資格に大きさの制限はあるか？

大村：カテゴリー2に適合していれば良い。

今後、各委員会や各団体から委員を募り実行委員会を作っていく。

③セールナンバー・キャンペーンについて

大村：BANと保険会社とのコラボを検討している。

本日BANに相談した。その席でBANから興味深い資料を頂いた。

資料によるとBANのクルーザーヨットの加入割合は17.5%だが、救助の割合は21%となっており、モーターボートより救助の率が高い。

BANのカバー海域は関東から九州北部までなので、その海域の救助に役立つのではないかと考えている。

4月に関東のレースでラダーの脱落事故が起きたが、外洋レースでBANが利用

できればと考え協議している。

KAZI の 10 月号に保険会社がセールナンバー登録を応援する記事が出る。

坂谷：2012 年の沖縄－東海レースの落水事故の際に海上保安庁より、沖縄－東海間の複数の点で救助体制を整えることが要求されたが難しいので断った。

BAN と関りが深くなると保安庁から要請があるかも知れないと考える。

大村：ロングオフショアーレースは BAN のカバー水域の関係で無理と考えている。

船澤：BAN の救助の内容は？

大村：ヨットが救助を求めた原因の 1 位がエンジンの故障で 56.5%、次にプロペラのトラブルで 16.2%、3 位乗揚で 8.6%、4 位が漁網の絡みで 6.2%、5 位が舵の故障で 3.4%となっている。

中澤：シーボニアでは BAN に加入することが艇を置く条件になっている。

(3) 各委員会・各水域報告

・北海道東北水域

石川：津軽海峡では 7 月 16 日に 3 年ぶりに 35 回青函カップレースが 16 艇の参加で開催され、ホテルに 120～130 人が参加して表彰式パーティーが行われた。

8 月 27 日に函館～室蘭の第 31 回エンルムカップレースが開催された。

事故は無かったが、台風の影響で流木が多かった、との報告があった。

9 月 18 日に第 48 回海峡レースの開催を予定しており、徐々にレースが再開されている。

福島では、ヨットの体験乗船会が実施された。

・関東水域

井上：4 団体ではスケジュール通りにレースは実施されているが、懇親会やパーティーはまだできていない。

関東でも流木が多く、ぶつかった事故が報告されている。

少しずつ以前の状態に近づいている。

・中部水域

岩瀬：7 月のパールレースは開催されたが前夜祭は中止。

9 月に開催予定のラグーナデニスコナーカップは中止が決定された。

東海ではレースが開催し辛い状況。

・関西水域

安田：7 月 16 日～18 日に和歌山で全日本ミドルボート選手権が 18 艇の参加で開

催された。

8月12日～14日の間に、紀伊水道レースが18艇で、徳島レースが5艇、阿波踊りレースが36艇の参加で開催された。

中村：全日本ミドルボート選手権は風が無かったが、半屋外でBBQパーティーを行った。

・九州沖縄水域

沼田：福岡水域ではあまりレースは開催されていないが、沖縄では3年ぶりに座間味レースが開催された。

伊江島レースは島でクラスターが発生した影響で中止。

南九州では鹿児島島カップが開催された。

・外洋計測委員会

川合：円安でレビィーが予算をオーバーしている。来年は値上げを考えなければならない。

・外洋安全委員会

平出：7月に3つのレースで事故報告があった。

関東では落水事故。種子島レースでは熱中症。

パールレースではデスマストと怪我が報告されている。

WSにはこれからの報告となる。

中澤：パールレースの報告で指の怪我の報告があったが、内容は重症の様である。

細かく報告を上げ直してもらい、注意喚起をしてもらいたい。

・通信委員会

坂口：無線局の調査と小笠原レースで使用する通信機を調べている。

レースの活動が増え、海岸局の加入が増えている。

・ルール委員会外洋規則小委員会

日下部：ジャッジマニュアル2021の邦訳をおこなった。

・キールボート強化委員会

中山：8月に開催されたNYCのチームレースは、日本代表が11艇中8位の成績であった。

2023年9月のニューヨークヨットクラブのインビテーショナルカップは葉山の

GAIA チームから応募があり、GAIA チームに決定した。

- ・ジャパンカップ委員会

服部委員長が欠席の為、中澤副会長より、今年のジャパンカップの開催が難しいことが報告された。

(4) その他

- ・大村常務より明日3日の理事会の主な議題が説明された。

- ・馬場会長よりメの挨拶があった。

久しぶりに外洋常任委員会に出席させて頂いた。

3年ぶりに移動制限のない夏を迎え、レースを満喫させて頂いた。

安全面に気を付けてレース活動をして頂きたい。

各水域の理事や関係者の皆様は感染対策を講じてレースを開催して頂きたい。

パリオリンピックに向けて、そして加盟団体のガバナンス等、未来志向でお願いします。

明日の理事会を宜しくお願いします。

- ・最後に大村常務より、9月15日に予定していた常任委員会は団体長会議の準備が主題であったので、中止にする事、次回は12月2日(金)に開催することが報告され、19:20分に閉会となった。

以上